



が渋谷・原宿の街をジャックした!?

AMSTERDAM

MUNICHEN

Project
2004!

TOKYO



謎のアートジュエリー集団160人

1993年よりスタートした「3 Schools Project」。
 これは、ドイツ（アカデミー オブファインアーツ）オランダ サンドベルグインスティチュート大学院）
 日本 ヒコ みづのジュエリー カレッジ）から選抜された9人のジュエラが
 各国3都市でテーマに沿ったユニークな作品プレゼンテーションを行う国際規模のプロジェクトなのだ！
 今回のテーマは「Print Place New Media」。
 6月にドイツ オランダで始まったプロジェクトは、国境を越え海を越え
 ついに11月 最後の開催地TOKYOに辿り付いた
 9人の小さな輪が 東京の街を 日本の新しいジュエリーを創造していく瞬間を徹底レポート。
 感動と笑顔に満ちた至福の7日間をとくにご覧あれ！

3 Schools

3 Schools Project



「PEDALOOP」 in MUNICH

2004/6/21~27、ミュンヘンにて行われた「3 Schools Project」のサブタイトルは「PEDAROOP」。「Media」は、ミュンヘンで古くからある自転車タクシー。9人のジュエリーを身につけたドライバー達が、イベントや作品情報を「Print」装飾したタクシーで、1日中、街を移動しながらプロジェクトを宣伝した。仕事を終えたドライバー達が、夕刻に「PLACE」である寺院の庭園中央に集結し、9作品が全て揃うと新たな展示会が始まった。作品は中央の箱の中に展示され、来場者が気軽に触ったり、身につけられるようにしたオープンな展示となった。

MUNICH

アカデミー オブ ファインアーツ

Nanna Melland

(ナンナ・メルランド)

1969年生まれ。美術史や宗教学を専攻した後、'95年エルバッケンゴールドスミススクール卒業。'01年までコペンハーゲン美術大学ジュエリー科。現在、アカデミーオブファインアーツ ジュエリー科在学中。

先生と学生の団結力、結束力がとても印象的だった。「SYNCHROAD」で、渋谷の上空を風船がゆっくり上がっていった瞬間は、とってもLOVE&PEACEな感覚に満たされたわ。街を歩く人々は、みんな不思議そうに私達を眺めていたけれど(笑) 何か感じてもらえるものがあったんじゃないかしら。



「Fragment Of Life / brooch」
(Silver, Epoxy, Glass)



(Silver/Ring)



Christian Hoedl

(クリスティアン・ヒュードウル)

1975年生まれ。98年ウィーン応用美術大学グラフィック科卒業。現在、アカデミーオブファインアーツ ジュエリー科在学中。

僕の生涯の中でも、とっても貴重な経験だった。僕がジュエリーを通してやりたいことの1つは、国籍や文化を越えて人々のボーダーラインをなくしていくこと。今回は、その大きな第1歩だったと思うよ。ジュエリーを通して、僕は新しいアート、友達、文化に出会った。この経験は、これから個々の中で育まれ、大きな花を咲かせると思うよ。



「Butterfly / necklace」
(Silk, Steel, Plastic, String)



「Bindetell / body jewelry」
(Silk, Brass, 22K)



鎌田治朗

(カマタ ジロウ)

1978年青森県生まれ。00年フォルツハイム造形大学ジュエリー科卒業。現在、アカデミーオブファインアーツ ジュエリー科在学中。

ドイツでは、コンテンポラリージュエリーは独立した分野。それに比べ、ヒコの学生のジュエリーは、ファッションやストリートと融合されたものが多く、より自由でオープンなイメージを受けたよ。日本のコンテンポラリージュエリーは、世界的に見てもとっても面白い発展のしかたをしているんじゃないかな。あと、実はずっと昔から乗っていたと思っていた念願の屋根船に初めて乗れて感動!



「Angel / Ring」
(Colored Cherry Wood, Gold Leaf)



「Untitled / necklace」
(Silver)



左「Gents / brooch」
(Silver, Industrial Lacquer)
右「Gold-hanger / Pierce」
(18K)



「JUWEEEL」 in AMSTERDAM

2004/6/3~8. アムステルダムにて行われた「3 Schools Project」のサブタイトルは「JUWEEEL」 9人の作品やイベントの日時を掲載した9種類のポスターを「Print」し、街中へ配布。それとリンクした「Media」では、9人の作品に相応しい映画の1シーンを9作選び、それぞれの映像の中にレイヤーで作品写真を重ね、あたかも映画の中に作品が登場しているかのような3分間映画を上映した。古い教会を「PLACE」としたパーティーには、各作家のモデルが作品を身につけて出席し、来場者もパーティーを楽しみながら作品を見るという、新しい趣向の展示会が行われた。

サンドベルグ インスティテュート大学院

AMSTERDAM

Bas Bouman

(バス・ボウマン)

1976年生まれ。'96年よりユトレヒト芸術大学で学び、'04年サンドベルグインスティテュート大学院卒業。

ヒコの学生の作品は、オリジナリティ豊かで技術力も高度だね。彼らのアイデアの転換方法はとても興味深かったし、学ぶことも多かった。先生と学生も仲良しで本当にHAPPYな空間だったね。みんな信じられないくらい礼儀正しくて、オシャレなことにも驚いたよ。学生が作ってくれたお味噌汁も最高に美味しかったし、いつかまた東京に戻って来たいと思ってるよ。



Fairy tale relics / Necklace
(Ceramic, Pig Blood)



Jantje Fleischhut

(ヤンティエ・フライシュフット)

1972年生まれ。彫金学校で学んだ後、リートフェルトアカデミーを経て、'02年サンドベルグインスティテュート大学院卒業。現在、アムステルダムのギャラリーに勤務。

オランダのジュエリーはコンセプト重視。だから日本のように着け心地や装飾的な美しさにもこだわったジュエリーに触れたことはとても貴重な経験だった。東京の街を160人で大行進しながらのプレゼンテーションも楽しかったわね。それに、学生みんなが熱心に教えてくれたおかげで箸の使い方もずいぶん上手になったわ(笑)



[Weisses/brooch]
(Fiberglass, Epoxy, Found Plastic, Pearls, Silver)



[Plastik, Universum / brooch]
(Fiberglass, Epoxy, Found Plastic, Pearls, Silver)

Ulrich Reithofer

(ウルリッヒ・ライトホーファー)

1978年生まれ。建築技術を学んだ後、'03年トリアー専門単科大学ジュエリー科卒業。現在、サンドベルグインスティテュート大学院在学中。

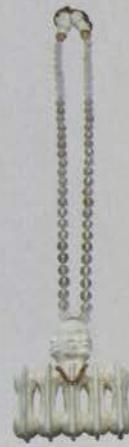
ジュエリーを通して、世界中の素敵な人達と出会えたことは、とっても素晴らしい経験だったよ。あのね、僕達ヨーロッパ人は、月の裏側にいる宇宙人じゃないんだよ(笑)。だから日本の文化の面白さもよく理解できるんだ。僕は箸を気に入っているし、テーブルの上で料理されるのを見たこと(鉄板もんじゃ焼き)や木のフレームに和紙を貼ったこと(障子の紙貼り)もエキサイティングだったなあ。



[Angel / Ring]
(Colored Cherry Wood, Gold Leaf)



右[Radiator / Necklace] (Colored Oak Wood, Smoke Rock Crystal, Magnets, Gold) 左[Hope/Necklace] (Colored Pine Wood, Ruby, Sapphire, Crystal, Moonstone, Obsidian, Silver, Gold)



3 Schools Project を見事成功へと導いた

9名の作家を直撃!!

「Print/Place/NewMedia」の3つの媒体を駆使した今回のプロジェクト。

「ジュエリーの展示会」という枠を飛び出た数々のイベントが各国で繰り広げられました。

それらすべてを企画し、やり遂げた新次代のジュエリー作家9名をここで紹介します！



植田 陽子

(ウエダ ヨウコ)

1980年、三重県出身

ヒコ・みつのジュエリーカレッジ アートジュエリーコース

(現ファッションアートアクセサリーコース) 卒業



「シンクロード」のイベントで、学生をまとめる植田さん。赤い拡声器も板についてます



「Imagination ring」

(Silver, Gold plated)

自分の一番大切な時間。それはモノを作ったり、作ることを考える時間…。このリングは身につける人が自由に曲げたり切ったりできる。「作ることを楽しむ時間を共有したい」という気持ちが込められている。



増崎 啓起

(マズザキ ヒロキ)

1983年、東京都出身

ヒコ・みつのジュエリーカレッジ アートジュエリーコース

(現ファッションアートアクセサリーコース) 卒業 現在、研修生



ウリと歓迎会でツーショット。まさか数日後2人で障子を張り替えることになるとは…



右「The ring of drawing」

(Iron, wood, Nail, Paint), 左「Brooch

by drawing (Canvas, Wood, Nail, Paint),

「Necklace by drawing」

(Canvas, Wood, Nail, Brass, Paint)

「ドローイング」はモノを作るうえで核となる部分。何気ないラインはそのままでも美しく、リアルな気持ちや意志を持っている。それを表現した力強い作品。

Q. このプロジェクトに参加しようと思ったきっかけは？

3年生の時、オットー・クンツリ氏のワークショップ(特別授業)に参加したんです。そこで氏の作品はもちろん、人柄にも魅せられて 留学をホンキで考えてました。そんな折、氏が講師を務めるドイツの美術大学がこのプロジェクトに参加するって話を聞いて、自分も参加したい! 作品を発表したい! って思ったのがきっかけです

Q. 実際に参加して、どうでしたか？

思っていたのと、実際にするのでは大違いでした。他の学校が面白い企画やイベントをやる度に、自分たちの企画する東京でのプロジェクトが心配でならなかった。ぜんぜん企画や内容が決まらなくて、焦りと不安で眠れなかったし。メインのイベント(シンクロード)が無事に終わったときは、嬉しさで達成感と終わってしまったという寂しさで放心状態に…。海外の参加メンバーの目に涙を見たときは、本当に感動しました!

Q. 大変だったことは？

学校全体への告知です 自分の足で全教室を回って宣伝したり、協力してくれる学生を募ったり…。オリジナルのピンズも作ったんですよ。オモチャみたいにガチャガチャで学内販売したら、行列ができるくらい大人気で驚きました(笑)。そのお陰が「シンクロード」の企画では、160名の募集枠に300名以上の応募があって、スゴク嬉しかった! イベント当日は、160名の動きを統一するために悪戦苦闘しましたが、みんな楽しそうに参加してくれて、大成功だったと思います

Q. イチバン楽しかったことは？

この間、私の友達が「渋谷で白い風船を持って歩いてる変な集団を友達が見たんだって」って言うんです ビックリしました。「それって私たちがやったの!」って言ったら友達もスゴク驚いて(笑) 私たちのことを全然知らない人が、どこかでこのプロジェクトのことを知って 話題にしてくれてるってスゴイですね。人と人はどこかで繋がってるんだって心から思いました。きっと160個の風船もどこかへ繋がっていったんですよ!

Q. アムステルダムとミュンヘンの展示会に参加して感じたことは？

両方とも「展示」というよりは、「ライブ」をやっているような感じで 刺激的な1ヶ月だった。ヨーロッパは日本と違って コンテンポラリージュエリーがアートとして確立されているから、そういう意味で日本との温度差を感じましたね。

Q. ホームステイでもおもしろエピソードがあるって聞いたけど

僕の家で、プロジェクトメンバー全員が揃うパーティーを開くことになっていて、その前に母が家の障子を張り替えようとしてたんです そしたら、うちでホームステイ中のウリ(ウルリッヒ)が自分もやるって言い出して しかも夜の2時に。結局1時間以上かけて全部の障子を張り替えただけで、初めての体験に、ウリはかなり満足そうでしたよ。僕は寝不足だったけど(笑)

Q. 作品づくりで何か変わった？

プロジェクトを経験して なぜか肩の力が抜けたんです それまではコンセプト重視で 作品にはそれを支える説明や、創ろうと思いついた理由なんかが大切だって思い込んでた。でも今は、説明なんかいらんんじゃないかと思う。特に日本人は、説明を聞いてわかった気になる人が多いように感じるけど、そんなの抜きでも本当に良いものって伝わるんですよ。自分もそんな作品を作りたいですね。

Q. 卒業後の進路は？

作家活動をしていこうと思っています 3年以内にオランダに留学するって目標もたてました。今はあえて 人になって自分を試してみたいって気持ち強いんですよ。なぜオランダかっていうと、プロジェクトで実際に行ってみて この国の作品色が僕には合うって感じたから。単純に街が好きっていうのもありますけどね。



ヒコ・みつのジュエリーカレッジ

TOKYO



高橋政雄

(タカハシマサオ)

1982年、宮城県出身
ヒコ・みつのジュエリーカレッジ
アートジュエリーコース
(現ファッションアートアクセサリーコース)
卒業



「シンクロード」のフィナーレ直前の
渋谷スクランブル交差点。高橋君だ
けが目印の赤い風船を持ち、160人
に風船を飛ばす合図を出した。

Q、プロジェクト成功のポイントはなに？

「性格の全く違う3人」と「周囲の協力」があつての成功だと思う。最後の開催地というプレッシャーの中での企画は本当に大変だった。でも、この3人だったからこそ、やり遂げられたんじゃないかな。「ムチャかな？」って企画も先生や周りのみんなが協力してくれて実現できたし、今は感謝の気持ちでいっぱいです

Q、不安だったことは？

「天気」です。メインイベントの「シンクロード」は全て外で行う内容で、雨が降ると台無しに…。だから天気予報は毎日何回もチェックしてた。でも前日の予報はなんと「雨」。胃はキリキリするし最悪でしたよ。それが朝起きてビックリ！空は「快晴」だったんです！！あの時はホントに嬉しくて涙がでました。おかげでイベントも大成功！参加してくれた学生もみんな楽しそうで、晴れてくれて本当に良かった。

Q、英語はOK？

じつは、ほとんど話せないんです。今まで自分から外国の人に近づくこともなかったし（笑）。でもプロジェクトに参加して変わりましたね。言葉がうまく伝わらなくても、単語とジェスチャーだけでも気持ちはある程度通じるってわかった。もちろんちゃんとした語学力があれば、もっといろんなコミュニケーションが取れたと思うし、英語は話せたほうが得だって心底思いましたよ。

Q、プロジェクトに参加してよかったことは？

世界が近くに感じられるようになった。このプロジェクトで、凝縮した留学のような経験をして「速い外国」が「身近な外国」に変わったんです。あと、日本とヨーロッパのアートジュエリーにはスゴイ差があるって感じてたけど、実際のレベルの高さを肌で感じることで、目標が具体的にになって「日本でもやれる！」って気になりました。

Q、今後やってみたいことは？

ジュエリーを「作る」だけでなく「発表」していきたい。今回のプロジェクトで海外コンプレックスがなくなったから、さっそくオランダのギャラリーにアプローチしてみたいです。そしたら見事成功！いま作品を置いてもらってるんですよ。今後もし積極的に外国のギャラリーにアピールするつもりです。それから「売れる商品」も作ってみたい。目標は「作品」と「商品」それぞれの価値をもったジュエリー。難しいけどがんばりますよ！



左/「Focus Ring」(18K,Lens)、右/「The honest woodcutter」(18K,Silver,Iron,Mewcury)
「身に着けていることを意識させるリング」がテーマ。レンズが使用された「Focus Ring」は、日光の下で焦点が合うとやけどする危険性がある。「The honest woodcutter」は、中に水銀が入っているの、溶け出る可能性がある。

Close UP

Cat Street Gallery

160点以上のジュエリーが集まった
「キャットストリートギャラリー」。
ココでは、ギャラリーを飾ったジュエリー作品たちを
一挙にご紹介します！ お楽しみください！



Synchroad START!!!

東京プロジェクトのメインイベント「シンクロード」。
金色の額ぶちがプリントされたお揃いのTシャツを身に着けて
額ぶちの中にオリジナルジュエリーをアレンジ！
ジブンの身体そのものを展示場所にして
160名の若きアーティストたちが
渋谷の街をムービングギャラリーへと塗り変えた！



13:10 青山通り～表参道を歩く！

世界初「移動するギャラリー」の誕生



ジュエリーを身に着けた不思議な行列に、
道ゆく人もビックリ！見られる学生も得意
満面、笑顔で前進！

13:00 学校をスタート！

160個のジュエリーが街へ飛び出した！



青いTシャツがプロジェクトメンバー、グ
レートのTシャツがその他の学生。全員でイベ
ントの成功を願った！



14:00 ランチタイム

食事中も立派な展示タイム



「揃いのTシャツ+胸にジュエリー」普通の
人なら気になります。いつでもどこでも
インスタで展示中。

13:30 キャットストリートギャラリー

公共の道路がジュエリーギャラリーに变身！



160人がキャットストリートを占拠した
！みるみるうちにストリートはジュエ
リーギャラリーに（ハッパジで詳しく紹介）

15:00 シンクロ ゴール！

160個のバルーンが渋谷の上空に舞い上がった！



14:45 バルーンプロジェクト始動

バルーン片手に渋谷のスクランブル交差点を目指す
ジュエリーの写真がいたバルーンを持つ
て学校を再度出発。シンクロードもい
よいよクライマックスへ！



14:30 タワーレコードをジャック！

音楽とジュエリーのコラボレーション！



タワーレコードのジュエリーギャラリーに？最
新音楽聴きながら最新ジュエリーも楽し
めた！

GOAL



世界に向けてジュエリー発信！さあ、ジュエリー新次代のスタートだ



アカデミーオブファインアーツ/オットー・マティアス・カレン先生によるワークショップ

SPOON(スプーン)を創ろう!

オットー クンツリ教授をはじめとしたジュエリーアーティスト3人によるスペシャルなワークショップが開催されました。テーマは、ずばり「スプーンを創ろう!」。「NATURE TO SPOON (自然物からのスプーン創作)」 「SPOON TO SPOON (スプーンからのスプーン創作)」 「HAMMER TO SPOON (銀棒からのスプーン創作)」の3つのキーワードに沿って生み出された個性あふれる作品の数々。最終日にはオットー先生主催「コンソメス パーティ」も企画され、みんな飛び切りの笑顔でした ♥♥♥



work shop teacher ~先生はこの3人!! ~



オットー クンツリ
ドイツのアカデミーオブファインアーツの教授でもあり、コンテンポラリージュエリーの世界的アーティスト



カレン ポントビダン
オットー氏の助手。ジュエリー作家



マティアス モーシュ
同校のジュエリー制作講師。NISSIN G(ニッシング)のゴールドグラデーションリングの生みの親



work shop student ~生徒にクローズアップ!! ~



渋谷 邦浩
ファッションアート
アクセサリコース3年生

今回のワークショップでは、以前からジュエリー制作の素材としてよく使用していたコンクリートを用いてスプーンを制作しました。自分に馴染みのある素材を普段のそれとは異なった角度で制作したことにより、コンクリートというものの新たな一面を発見することができました。



北 幸
ファッションアート
アクセサリコース2年生

毎日、違うテーマに沿って考え、解釈し、表現するのはたいへんだったけど、個性的で素晴らしい3人の先生のジュエリーに対する情熱や発想、ポジティブな提案、それに基づいたアドバイスに直接触れることができ、一皮むけた気がします。最後に食べたオットー先生特製のスープも美味しかったです!



外間 貴子
ジュエリーデザイン
プロダクトコース1年生

いろいろな人の作品を見ることによって新たな発見が出来たことや、身近なものでも見方を変えるだけでアートになるってということが、スゴク印象的でした。1年生の時にこんなチャンスに恵まれた私は、本当にラッキーです。この経験を今後の作品づくりに活かしていきたいなと思います

「3 Schools Project」を終えて

ジュエリーコース学部長 影山 公章

今回で3回目となる「3 Schools Project」が鮮やかな記憶と革新を残して終了した。プロジェクトと呼ぶに相応しいユニークなプレゼンテーションの数々、そしてそれを通して現在進行形で成長していった若きジュエラーたちの姿も、このプロジェクトをより魅力的なものにしていた。オランダ ドイツでのプロジェクトでは、本校の高橋 増崎 植田の3人は、約1ヶ月間、現地の学生宅にホームステイし、寝食を共にしながら大いに交流を深めた。そして11月、日本にて再会したメンバーは、ほとんど家族のような深い信頼と友情の絆で結ばれた。プロジェクトが進むにつれ、ジュエリーを通じた9人の結束はより強くなり、彼らの回りには自然と仲間の輪が広がっていった。東京でのメインイベントとなる「SYNCHROAD」で、160個の風船が渋谷の交差点の真ん中で1つになり、空高く消えていくシーンは、それを象徴するような素晴らしい光景だった。「今」という時代、街、そこに生きる人々とのコミュニケーションを通して、新しいジュエリーの魅せ方にこだわった彼ら。このプロジェクトに加わった若きジュエラーたちが、今後、いったいどんな活躍を見せてくれるのか。非常に楽しみでならない。

WE ♥ JAPANESE LIFE

3 Schools Projectのメンバー5人は、今回が初めての日本滞在一。
プロジェクトの準備に多忙な中でも、ヒコの講師や生徒宅へのホームステイを通して日本の文化や習慣に触れたり
名所観光やショッピング ホームパーティーに行ったりと日本滞在を思いっきり満喫した様子。
そんな5人の「日本滞在記」をオフショット写真とともに振り返る！



「やっぱりコレは外せません！浅草観光」

多数の玩具問屋が軒を連ねる合羽橋道具街では、食品サンプル(レストランのショーケースに飾られている模型)や「一番!」「日本!」と書いてあるハチマキを大量に購入していました。何に使うのでしょうか…?



「もんじゃパーティー IN 屋形船」…その2

アカデミーオブファインアーツのオットー先生、もんじゃ作り
に初挑戦。さすが、手先が器用です 気のせいかな、とっても
アーティスティックなフォルムのもんじゃが出来上がっていました。



「もんじゃパーティー IN 屋形船」…その1

ウェルカムパーティーは、屋形船での月島〜お台場ナイトクルーズ。七色に輝く夜景と幻想的に揺れる水面に一同感動。
もんじゃとお好み焼きの味も気に入ったようで、初日から、飲んで食べての大会となりました。



「またまたお寿司登場 今度は回転してます」

今度は、渋谷の回転寿司。次々と流れてくる多様なビジュアルのお寿司に興味津々 1皿1皿、必死に写真におさめようとするウルリッヒの姿がキュートです



「東京の台所 築地市場」…その2

築地散歩を終えたら、近くのお寿司屋さんに直行! 日本茶とビールを飲みながらお寿司をつまむ姿は…まるで日本人のようですね(笑)



「東京の台所 築地市場」…その1

バス・ウルリッヒ・増崎くん・増崎くんのお父さんの4人で築地市場へ。時間は早朝5時。オランダでは珍しい、引き揚げられたばかりの大量巨大マグロに大ハシャギの2人。増崎宅へ帰る後は、お父さんが買った鯛のお造りを頂きました。



「日本刀セミナーに大感激」

メタルクラフトコース安藤先生による「日本刀セミナー」日本ならではの伝統技法が数多く施された刀の美しさに大感激。本当に穴が開くんじゃないかと思うほど、ずーっと見つめていました。



「餅つきもやってみました!」

同じく「ふいご祭」での1コマ 何でもチャレンジしたが彼らがやらないわけがありません(笑) 体験した後は、自分ですったお餅を美味しく口に頬張っていました。



「ヒコ恒例行事!ふいご祭にて糸のこレースに挑戦」

ヒコで毎年行われる「ふいご祭」にも参加。その中のイベント、「糸のこレース(銀板切断のスピードと精度の競争)」では、ヒコの選抜選手たちと全面対決。どのチームより白熱していました。ちなみに優勝はヒコの1年生選抜チーム。



「お疲れ様!アフターパーティー!!」

プロジェクトの成功を祝ったアフターパーティーは渋谷のクラブ「SIMOON」にて。メンバーをはじめヒコの学生など300人以上が参加しました。学生はもちろん、水野校長やオットー先生、マティアス先生も踊る踊る!ダンスホールを盛り上げました。



「すっかり東急ハンス常連客」

滞在中、5人が通いつめた渋谷「東急ハンス」日本一の素材の宝庫は、彼らの創作熱をますます高めた様子。いつもハンスの紙袋を手には提げていました。待ち合わせに遅れる時は、だいたいココに寄っていた様子…。



「日本食は美味しかった!日課のみんなでブランチ」

滞在中の朝食は、全員揃って第4校舎教室で「いただきます」。ヒコの先生や有志の学生が毎日、美味しい食事を作りました。箸を器用に使って、お味噌汁もお漬物も「OICHI-I!」と言いながらバクリ。みんな日本食にすっかりハマッちゃいます



3 Schools Project 2004

学校法人水野学園

専門 **ヒコ・みづのジュエリーカレッジ**
学校

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-29-2 (渋谷・原宿駅から徒歩9分)

学校代表 TEL 03-3499-0300 URL <http://hikohiko.jp> (ヒコヒコドットジェイビー)
i-mode <http://hikohiko.jp/i> E-mail info@hikohiko.jp

★入学相談室直通フリーダイヤル

☎0120-00-3389

(携帯電話、PHSからもつながります)



渋谷 原宿の街がストリートギャフニー 大変身

3 Schools Project 2004

